

Special Feature

メジャーリーグベースボール

【MLB】特集



今年の MLB は、ロサンゼルス・ドジャースがトロント・ブルージェイズとの激戦を制し、7 戦の末にワールドシリーズ 2 連覇を達成。球団通算 9 回目（LA に移転後 8 回目）のワールドシリーズ制覇となった。2025 年シーズンのドジャースは、レギュラーシーズンから圧倒的な安定感を見せ、ポストシーズンでも隙のない戦いぶりを見せた。一方、敗れたトロント・ブルージェイズも A・リーグを代表する強豪として健闘し、若手中心のチームが勢いを見せたことは、今後の MLB 全体にとっても明るい材料となった。

今年は東京シリーズの開催や、日本人選手の活躍により「メジャーリーグが遠い世界ではない」という意識が日本でも更に強まった。11 月 14 日（米国時間）には、大谷選手が満票で 3 年連続、通算 4 度目の MVP に輝き、5 年連続のエドガー・マルティネス賞と 3 年連続のハンク・アーロン賞にも輝いた。年末に向けて、ポストティング申請した村上宗隆選手の移籍先がどこになるのか話題になっているが、今後も日本人選手の更なる台頭や、アジアを含めた MLB の海外展開にも注目が集まっている。

今号の巻頭特集は、編集長もコレクションしているアメリカの老舗トレーディングカードメーカーで、MLB 公式カードの象徴的存在でもある TOPPS（トプス）社のカードと共に MLB を特集！

(The Walker's 鯉登正之)

【Japanese Trio】

今年の MLB で最も熱い話題をさらったのがロサンゼルス・ドジャースの日本人トリオ、大谷翔平選手、山本由伸選手、佐々木朗希選手の 3 人だ。大谷選手はシーズン序盤こそ打者専念だったが、夏以降に投手としても復帰し、二刀流として躍動した。ポストシーズンでも要所で好投し、自らのバットでもチームを救う勝負強さを見せ、3 年連続、通算 4 度目の MVP にも輝いた。山本選手は圧巻の安定感でエースとして君臨。ポストシーズンで 5 勝 1 敗、防御率 1.45、2 完投という歴史的な数字を残し、ワールドシリーズでは第 6 戦、第 7 戦で連投して 3 勝を挙げ、シリーズ MVP を獲得。チームをワールドシリーズ連覇に導いた。そして、佐々木選手はクローザーとしてポストシーズンで大活躍。圧倒的な球威で存在感を一気に高めた。3 人それぞれの役割で 2025 の MLB の頂点を掴んだこの快挙は、MLB における日本人選手の新時代の象徴となった。

- ① SHOHEI OHTANI（大谷翔平）
＜ Los Angeles Dodgers ＞
- ② YOSHINOBU YAMAMOTO（山本由伸）
＜ Los Angeles Dodgers ＞
- ③ ROKI SASAKI（佐々木朗希）
＜ Los Angeles Dodgers ＞

Copyright © 2025 TOPPS.



[Japanese Pioneer in MLB]

MLBにおける日本人選手のパイオニアとして語り継がれているのは、投手のパイオニアである野茂英雄選手と打者のパイオニアであるイチロー選手だ。1995年にロサンゼルス・ドジャースに入団した野茂選手は、日本プロ野球で培った独自のトルネード投法でメジャーの舞台に挑戦した。新人ながら圧倒的な活躍を見せ、1995年のオールスターゲームで先発投手を務め、サイ・ヤング賞投票で上位に入るなど、日米野球の壁を打ち破る存在となった。そして、2001年にシアトル・マリナーズに入団したイチロー選手は、俊足・巧打・強肩を武器に、MLBでのルーキーイヤーで年間最多安打 262 本を記録し、MLBに衝撃を与えた。野茂選手の挑戦が MLB の道を開き、イチロー選手の圧倒的な成果が日本人選手の可能性を証明した。2人は単なる選手としてだけでなく、日米プロ野球の架け橋として、多くの後進選手に夢と勇気を与え続けている。

① HIDEO NOMO (野茂英雄)
< Los Angeles Dodgers >

② ICHIRO (イチロー)
< Seattle Mariners >

Copyright © 2025 TOPPS.

Not pictured

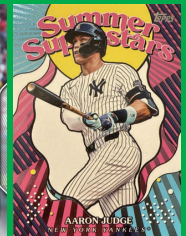


[Slugger]

“スラッガー”とは、一振りでスタジアムの空気を変える男たちのこと。今年の本塁打王は、ア・リーグがシカゴ・カブスのカール・ローリー選手で 60 本塁打を放った。ナ・リーグがフィラデルフィア・フィリーズのカイル・シュワーバー選手で 56 本塁打を放ち、それぞれ圧巻のパワーを見せつけた。ローリー選手は捕手としては異例の長距離砲で、鉄壁の守備と共にチームを牽引した。シュワーバー選手は豪快なフルスイングで特大アーチを量産した。また、“スラッガー”として常に話題の中心にいるのが、大谷翔平選手とニューヨーク・ヤンキースのアーロン・ジャッジ選手だ。本塁打王のタイトルこそ逃したが、2人共に今年の MVP に輝いた。ジャッジ選手はパワーで、大谷選手は技術とセンスで、ホームランを芸術へと昇華させた。大谷選手は今年自己最多シーズン 55 本塁打を放った。“スラッガー”たちは、現代の英雄としてファンの心を震わせている。

- ① CAL RALEIGH (カル・ローリー)
< Seattle Mariners >
- ② KYLE SCHWARBER (カイル・シュワーバー)
< Philadelphia Phillies >
- ③ AARON JUDGE (アーロン・ジャッジ)
< New York Yankees >

Copyright © 2025 TOPPS.



[Old Rookie]

今年、MLBに挑戦した“オールドルーキー”として注目されたのが、元読売ジャイアンツの菅野智之選手だ。日本プロ野球 (NPB) では屈指のエースとして大活躍し、平成最後の沢村賞をはじめ、数々のタイトルを獲得して来た NPB を代表する実力派投手だ。35歳でボルチモア・オリオールズと契約し、ルーキーとして MLB の舞台に立った。2025年シーズンの最終成績は 157 回を投げ、10 勝 10 敗、勝率 .500、防御率 4.64、106 奪三振だった。規定投球回には僅かに足りなかったが、30 登板、30 先発で共に日米通算でのシーズン自己最多登板数を更新し、新人ながらオリオールズの投手陣の中で、唯一最後までローテーションを守り抜いた投手となった。新人王のタイトルこそ逃したが、シーズンを通して見事な活躍ぶりを見せてくれた。2026年シーズンの活躍も楽しみで、“オールドルーキー”として MLB での新たな歴史を刻もうとしている。

① TOMOYUKI SUGANO (菅野智之)
< Baltimore Orioles >

② TOMOYUKI SUGANO (菅野智之)
< Baltimore Orioles >

Copyright © 2025 TOPPS.



【The small defeats the great】

MLB で現役最高の選手と言っても過言ではないニューヨーク・ヤンキースのアーロン・ジャッジ選手の身長は約 200.7cm、大谷翔平選手は約 190.5cm と、近年は大型の選手の活躍が目立つ一方、今年のワールドシリーズで一際目に留まったのは、トロント・ブルー Jays の正捕手として見事な打撃と守備を披露してくれたアレハンドロ・カーク選手だ。カーク選手の身長は約 172.7cm。その漲る闘志と日本の人気野球漫画の主人公“ドカベン”を彷彿とさせるぽっちゃり感にも癒された。また、ボストン・レッドソックスで活躍する吉田正尚選手の身長もカーク選手と全く同じ 172.7cm。但し、メジャーリーグにはカーク選手と吉田選手より更に小柄な選手が存在する。ヒューストン・アストロズのホセ・アルトゥーベ選手で、その身長は約 167.6cm だ。正に「小よく大を制す」。MLB で活躍する彼らの姿は、世界中の野球少年たちにも勇気を与えている。

- ① ALEJANDRO KIRK (アレハンドロ・カーク)
＜ Toronto Blue Jays ＞
- ② MASATAKA YOSHIDA (吉田正尚)
＜ Boston Red Sox ＞
- ③ JOSE ALTUVE (ホセ・アルトゥーベ)
＜ Houston Astros ＞

Copyright © 2025 TOPPS.

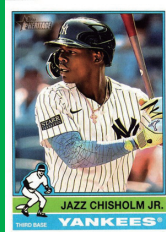


【Jazz in MLB】

MLB と Jazz にあまり接点はなさそうだが、とても Jazzy な選手が 1 人だけ存在する。ニューヨーク・ヤンキースのユーティリティープレイヤー、ジャズ・チザム・ジュニア (Jazz Chisholm Jr.) 選手だ。1998 年 2 月 1 日生まれで、バハマ・ナッソー出身。2024 年 7 月にマイアミ・マーリンズからニューヨーク・ヤンキースに移籍し、今年のオールスターゲームにも出場するなど活躍中。本名は Jasadro Prince Hermis Arrington Chisholm Jr. で、ニックネームとして“Jazz”が使用されており、「祖父がギターを弾いていた」と音楽的なバックグラウンドを語っている。また、本人も音楽制作/ラップ活動にも携わっており、“Prince Jazz”という名義で楽曲を制作・発表していたという報道や「ラップ/プロデュースを 200 曲ほど手掛けた」という発言も残されている。“Jazz”というニックネームだけでも、本誌にとっては嬉しい限り。今後も注目していきたい選手の 1 人だ。

- ① JAZZ CHISHOLM JR. (ジャズ・チザム・ジュニア)
＜ New York Yankees ＞
- ② JAZZ CHISHOLM JR. (ジャズ・チザム・ジュニア)
＜ Miami Marlins ＞

Copyright © 2025 TOPPS.



【Number 27】

弊誌の X アカウント (@TheWalkers27) にも「27」が付けられている通り、「27」は編集長のお気に入りのナンバー。元々、日本のプロ野球チームの大洋ホエールズ～横浜大洋ホエールズで活躍し、名球界入りも果たしたカミソリ・シュートで知られた背番号「27」の名投手、平松政次選手のファンだったことが要因だが、今でも背番号「27」を付けている選手を見ると注目してしまう。現役メジャーリーガーで背番号「27」を付けている選手で有名なのは、ロサンゼルス・エンゼルス・マイク・トラウト選手。ワールドシリーズでの涙も話題になったトロント・ブルー Jays のブラディミール・ゲレーロ・ジュニア選手。ニューヨーク・ヤンキースのジャンカルロ・スタントン選手。ニューヨーク・メッツのマーク・ビエントス選手。デトロイト・タイガースのトレイ・スウィニー選手。そして、日本が誇る右打ちの強打者シカゴ・カブスの鈴木誠也選手も背番号「27」を付けている。

- ① MIKE TROUT (マイク・トラウト)
＜ Los Angeles Angels ＞
- ② VLADIMIR GUERRERO JR.
(ブラディミール・ゲレーロ・ジュニア)
＜ Toronto Blue Jays ＞
- ③ SEIYA SUZUKI (鈴木誠也)
＜ Chicago Cubs ＞

Copyright © 2025 TOPPS.



【Walk-up Song】

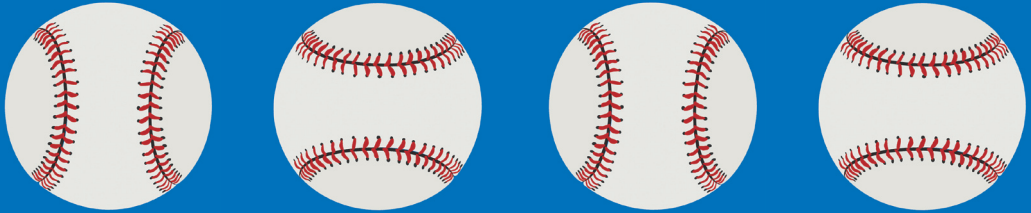
MLB では打席に入る際に選手を盛り上げ、スタジアム全体を熱くさせる「ウォークアップソング」が注目される。大谷翔平選手はマイケル・ブーブレの「Feeling Good」で登場。大谷選手のチームメンバー、ロサンゼルス・ドジャースのフレディ・フリーマンはデイヴィ&ビクター・カーデナスの「Baila Comigo」、ウィル・スミスはケンドリック・ラマーの「Squabble Up」で登場し、ムーキー・ベッツは「Affirmations」他、複数の曲で打席に立っている。トロント・ブルージェイズのブラディミール・ゲレーロ・ジュニアはリル・ベイビー&グンナの「Drip Too Hard」、ニューヨーク・ヤンキースのアロン・ジャッジはF.L.Y.の「Swag Surfin'」、ミネソタ・ツインズのカルロス・コレアはボン・ジョヴィの「You Give Love a Bad Name」で登場している。それぞれの曲は選手の個性とパフォーマンスを象徴するサウンドトラックとなっており、MLB の魅力を更に際立たせている。

【Major Leaguers in NPB】

日本プロ野球（NPB）には、MLB で華やかな実績を残したスター選手たちが一時的に来日した例がある。代表格が 1987 年にヤクルトでプレーしたボブ・ホーナー選手で、アトランタ・ブレーブスの主砲として MLB で 4 度の 30 本塁打を記録した強打者だった。短期間の在籍ながら NPB でも長打力を発揮し、その名を残している。阪神でプレーしたセシル・フィルダー選手は、NPB で覚醒した後、帰国した MLB で本塁打王を 2 度獲得するなどメジャーを代表するスラッガーに成長した。元ナ・リーグ MVP のケビン・ミッチェル選手は 1995 年にダイエーに入団し、怪我に悩まされながらも圧倒的な存在感を見せた。楽天に所属したアンドリュー・ジョーンズ選手は MLB で 10 度のゴールドグラブ賞を誇る名外野手で、日本でもその力強い打撃と守備は健在だった。彼らは、世界トップレベルの実力者が NPB に新たな刺激をもたらした象徴的な存在であった。

【MLB Movie】

最後に、MLB を舞台にした名作映画を紹介したい。黒人初の MLB 選手となったジャッキー・ロビンソンの人種の壁を超えた勇気と挑戦を描いた『42 ～世界を変えた男～』（チャドウィック・ボーズマン主演）。大谷翔平選手がその再来とも言われている伝説のホームラン王ペーブ・ルースの生涯を描いた『夢を生きた男／ザ・ペーブ』（ジョン・グッドマン主演）。不思議な魔法が球場に起こる『フィールド・オブ・ドリーム』（ケヴィン・コスナー主演）。笑いと感動の『メジャーリーグ』（チャーリー・シモン主演）シリーズは、とんねるずの石橋貴明が出演した第 2 作も必見。統計分析で経営危機に瀕した球団を再建する姿を描いた『マネーボール』（ブラッド・ピット主演）。そして、メジャーリーグ選手の NPB での奮闘を描き、MLB と NPB の両方の世界を描いた『ミスター・ベースボール』（高倉健主演）など、MLB ファンの魂を揺さぶる名作が存在する。



【TOPPS】

編集長と TOPPS の出会いは、1970 年代前半～幼稚園時代に遡る。当時、東京都福生市の国道 16 号線沿いにある米軍横田基地で暮らしていたアメリカ人の叔父一家の自宅で見かけた 1 枚のベースボールカードだった。その鮮やかでシックで異国の香り漂うカードの衝撃は今も忘れられない。TOPPS は、1938 年に NY のブルックリンで菓子メーカーとして創業した企業を起源とする。第二次世界大戦後、チューインガム事業の拡大に伴い、販売促進としてカードを封入したことがトレーディングカード産業への本格参入につながった。1951 年に最初の野球カードセットを発売し、そのデザイン性と選手ラインナップの両面で画期的な存在となった。その後、アメフト、バスケットボールなど多様なスポーツカードの他、映画・テレビ・アニメなどを題材にしたノンスポーツカードにも注力し、トレーディングカード文化を牽引する存在として現在も高く評価されている。

<https://jp.topps.com/>